

2024年度 大学入学共通テスト 古典(本試験) 分析

試験時間 現代文とあわせて80分

難易度	出題分量	出題傾向
前年よりやや易化。第3問は昨年並み、第4問は前年よりやや解きやすくなった。	文章量は第3問(古文)が前年より減少、第4問(漢文)はほぼ同じ。マーク数は第4問で1つ減少した。	古文・漢文ともに基礎的な知識が身につけていれば解きやすい問題が多かった。
総評 前年並みかやや易しい出題である。第3問は擬古物語で読みやすいが、和歌が3首あり、苦手な人は苦勞したかもしれない。また複数テキストは古文ではなく現代評論で読みやすい。第4問は漢詩が復活したが、資料の文章が読みやすく理解しやすい。		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第3問	古文	50点	問1では基本古語の知識は文脈理解が問われている。問2は文法と表現に関する説明問題。問3は和歌の知識と解釈の問題。問4は本文を解説した現代文を読んで答える問題。前年までは第3問では複数の古文が出題されていたので、本年は取り組みやすかったと言える。
第4問	漢文	50点	問1は漢詩の知識、問2は語句の意味、問3は返り点と書き下し文で、いずれも漢文の基礎知識があれば容易な問題である。問4～問6は漢詩と資料の関係を読み取って答える問題で、受験生にはやや難しく感じられるかもしれない。

高1・2生へのワンポイントアドバイス

大学入学共通テストが始まってから、最も知識事項が問われたテストだと言える。古文単語、古典文法、漢文の句形、基本漢字などをしっかり覚えていればスムーズに解ける問題がこれまでに比べ多かった。日頃の勉強の積み重ねが好結果を生み出すのは間違いない。読解は学校の授業+ α の演習を積んでおくとういだろう。そのうえで受験学年になってから本格的な受験勉強を始めたい。